令和2年8月6日　北海道新聞（朝刊/15面/地域の話題）
本学教員　大津准教授　掲載

交通量増「歩車分離」が柱

市、来年度に計画策定

小樽駅前広場再整備

小樽市は5日、JR小樽駅前広場の再整備基本計画の策定作業を始めた。1976年の整備から40年以上がたち、歩行者や車両の動線が混在。事故の危険性があるなどの課題が指摘されており、「歩車分離」を柱に安全性と利便性の向上へ新たな配置図を基本計画に盛り込む。市は来年度末の計画策定を目指す。

（谷本雄也）

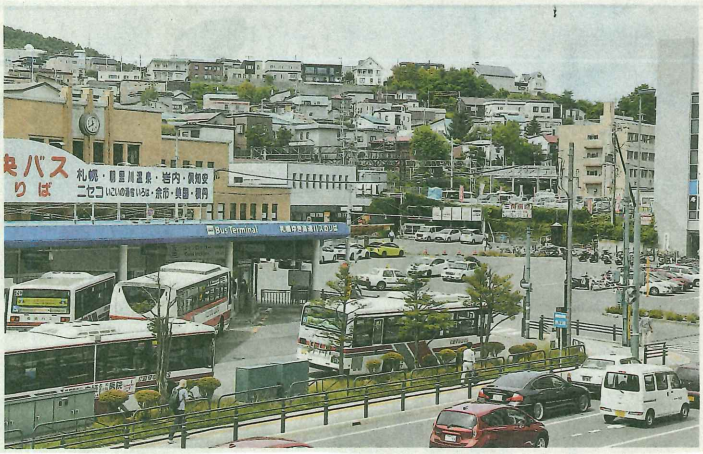
駅前広場は約7400平方㍍で主に市有地。バスターミナルやタクシープール、駐車場、駐輪場などを備える。しかし整備時より交通量が増え、安全面や機能面で課題が出ている。歩行者と送迎の自家用車やバス、タクシーの動線がはっきり分かれていないため、接触の危険性があるほか、交通の流れが悪いことが問題視されている。

市は5日、基本計画検討委員会の初会合を市内で開催。駅前広場の再整備方針案として①安全で快適な歩行空間の確保（歩車分離）②新幹線開業後の需要への対応（新幹線駅とつなぐバスの受け入れ）③災害時にも活用できる多目的スペースの確保―などを示した。

今後は広場内の各施設の規模や市民ニーズなどを検討しながら、本年度中に3案に絞り、来年度末までに基本計画を最終決定する予定だ。

計画策定後、広場再整備の着工時期は未定。ただ、隣接する駅前第1ビルの再開発議論と連携し、機能分担を図ることも論点となるため、第1ビルの再開発と同時期に進める考え。同ビルの地権者らでつくる再開発準備組合とも協議しながら決める方針だ。

検討委は交通事業者や学識経験者、市民ら約20人で構成。委員長には小樽商科大の大津昂准教授が選ばれた。



再整備に向け基本計画の策定作業が始まったJR小樽駅前広場